

あなたも私も暮らしやすい
自然・歴史・文化・ものづくりが煌めく新舞台
「麻績の里 座光寺」



第2次 座光寺地域基本構想・基本計画

平成29～令和10年度(後期 令和5～10年度)

第2次 座光寺地域基本構想・基本計画(後期)

あなたも私も暮らしやすい
自然・歴史・文化・ものづくりが煌めく新舞台「麻績の里 座光寺」
[自ら考え自ら行動するまちづくり]

目次

はじめに

第1章 基本構想・基本計画策定のねらい …4

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の性格
- 3 計画の期間
- 4 取り組みの主体

第2章 基本構想のめざすもの ……5

- 1 めざす将来像
 - 2 将来像実現に向けての6つのまちづくり
- 施策の体系

第3章 6つのまちづくり 施策の展開 …8

1. 心通い合うコミュニティを

創造するまちづくり …… 8

- (1) 参画と協働を進め、自立の輪を広げます
- (2) 郷土愛を高め、若者が帰ってきたい地域づくりを進めます
- (3) 多様な交流の場を創出し、拡大につなげます
- (4) コミュニティ運営の充実を図ります

2. 一人ひとりが地域に学び、

生涯成長できるまちづくり …… 11

- ◆地域を愛し、自ら考え自ら行動する「みやましい」人づくり
- (1) 誰もが生涯現役で活躍できる環境をつくります
 - (2) スポーツを振興します
 - (3) 生涯学習を推進します
- ◆地域みんなで支える結婚・出産・子育て
- (4) 結婚・子育てを地域全体で見守り、支え、応援します
 - (5) 学校と地域が連携を深めます

3. 自然と歴史・文化を活かし

育むまちづくり …… 14

- ◆自然の保全と活用
- (1) 美しい自然を次代に継承します
 - (2) 自然に触れ親しむ環境をつくります
- ◆2000年浪漫の郷
- (3) 歴史・文化を保存し継承します
 - (4) 歴史・文化の活用に取り組みます
- ◆地域文化の創造
- (5) 交流と学習を通して文化を継承し発展させます
 - (6) 地域文化の情報を発信します

4. 健やかに安心して暮らせる

住みよいまちづくり …… 17

- ◆健康と福祉のまちづくり
- (1) 共助の心で地域福祉の向上に努めます
 - (2) 健康寿命を延ばす取り組みを進めます
- ◆快適で安全安心なまちづくり
- (3) 身近な足元の環境衛生に取り組みます
 - (4) 災害に強い地域づくりに努めます
 - (5) 防火防犯と交通安全に取り組みます

5. 地域特性を活かした

元気な産業のまちづくり …… 20

- ◆農業
- (1) 風土を活かし座光寺らしい農業を継承します
- ◆農商工の連携(6次産業化)
- (2) 農商工の連携を進め6次産業化を図ります
 - (3) エス・バードの活用を図ります
- ◆観光
- (4) 地域の人と資源を活かした観光振興をめざします

6. 人と自然に優しいインフラ整備 …… 23

- ◆土地利用
- (1) 土地利用計画を推進し、見直します
 - (2) 美しい景観の保全(確保)に努めます
- ◆施設整備
- (3) 道路・河川を整備し、地域の活性化と災害に備えます
 - (4) 住宅用地の確保と住環境の整備を働きかけます
 - (5) 潤いのある生活のために公園を整備します
 - (6) リニア中央新幹線及び関連道路の整備に協力します

第4章 構想推進のために ……26

1 推進体制

2 効率的な運営

座光寺地域自治組織図 …… 28

沿革 …… 29

策定経過 …… 31

委員名簿 …… 32

子どもたちが描く 2027年の座光寺 …… 33

はじめに

座光寺地域では、平成29年度にスタートした第2次座光寺地域基本構想・基本計画が掲げる将来像「あなたも私も暮らしやすい自然・歴史・文化・ものづくりが煌めく新舞台『麻績の里 座光寺』」の実現に向け、自治会や関係団体による取り組みが行われています。

計画期間12年の前半が経過することから、自治会の各委員会・関係団体・地区から選出された委員の皆さんによる検討委員会を発足し、毎年度行う個別計画の振り返りと評価をもとに、将来像実現に向けた「6つのまちづくり」について検討し、後期6年間の計画を策定しました。

地域では、明治5年に如来寺（元善光寺）に始まった座光寺小学校が、その学び舎を舞台校舎へ、そして現在の校舎へと変えながら、昨年150周年を迎えました。リニア中央新幹線の開業に向けては、令和元年度に「産業振興と人材育成の拠点」エス・バードが開設され、令和2年度に座光寺スマートインターチェンジの供用が開始されたほか、リニア中央新幹線長野県駅（仮称）の建設や国道153号線の改良、座光寺・上郷道路の建設に係る工事も始まっています。国史跡恒川官衙遺跡の整備でも2000年浪漫の郷づくりに向けた史跡公園整備の計画が進んでいます。

地域を取り巻く環境は目覚ましい変革を遂げようとしています。地域にとって大切なものを今一度思い起こし、守るべきものはしっかりと守り育みながら、地域の発展につなげていくことが求められています。

本年度より始まる後期6年間の基本構想・基本計画を踏まえ、私たちはお互いに協力し合い、飯田市その他関係機関と連携しながら、リニア中央新幹線開業後を見据えた地域づくりに取り組んでまいります。

令和5年4月1日

座光寺地域基本構想・基本計画見直し検討委員会
委員長 牧野 光彰



第1章 基本構想・基本計画策定のねらい(再掲)

1 計画策定の趣旨

座光寺地域は、先人から受け継がれてきた豊かな自然や歴史・文化、特色ある農業などを守り育んできました。

当地域を取り巻く状況は、リニア中央新幹線整備事業及び関連道路事業・恒川官衙遺跡整備事業・「産業振興と人材育成の拠点」エス・バード整備事業など、地域全体に及ぶさまざまな大型プロジェクトが動き、まさに大変革期を迎えています。

一方、日本全体で大きな社会問題となっている人口減少・少子高齢化についても、当地域も例外ではなく、取り組むべき重要な課題です。

この変革期にあっても、誰もが将来に希望と自信をもって心豊かにいきいきと暮らせる質の高い「麻績の里 座光寺」を創造していかなければなりません。

第2次座光寺地域基本構想・基本計画（以下、「基本構想」「基本計画」という）は、その指針となる地域づくりの目標であり、我々が取り組むべき具体的な行動計画です。

2 計画の性格

基本構想は、座光寺地域の豊かな自然や歴史・文化を守り、より活力に満ちた社会や産業を生み出し、心豊かに暮らせる新たな時代にふさわしい地域づくりの方向を示すものです。

基本計画は、座光寺地域自治会をはじめ各団体の活動の目標として活かすとともに、総ての座光寺住民の指針となるよう策定するものです。

また、座光寺地域づくりの方策を示すことにより、市・県・国の理解と協力を得るとともに、地域住民の自主的・積極的参加を期待するものです。

3 計画の期間

平成29年度から向こう12年間（令和10年度まで）の取り組みの目標とします。

なお、年度ごとに進捗状況を把握・検証し、6年を一区切りとして計画の見直しを行い、時代に沿ったものに改めることとします。

4 取り組みの主体

基本構想・基本計画への取り組みの主体は、座光寺地域に暮らす住民です。私たち住民一人ひとりがまちづくりの主体として知恵と汗を出し、共に手をたずさえ、より暮らしやすい地域をめざします。

第2章 基本構想のめざすもの（再掲）

① めざす将来像

あなたも私も暮らしやすい 自然・歴史・文化・ものづくりが煌めく新舞台 「麻績の里 座光寺」

【自ら考え自ら行動するまちづくり】

座光寺は東に南アルプスを望む天竜川西岸に位置しています。段丘地形から、地域は上・中・下段に分かれ、変化に富んだ自然や風土を活かした生活の様子が見られます。

豊かな自然とともに、座光寺は歴史・文化が息づく地域です。古代伊那谷の中心としての役割を担った「恒川官衙遺跡」をはじめ、多くの貴重な史跡・文化財があります。私たちはこれらを「地域の宝」として守り、未来に引き継いでいかなくてはなりません。

当地域の農業は、恵まれた自然条件と高度な生産技術により、優良産地として発展してきました。美しい農村風景も、当地域の大きな魅力の一つです。今後は多様な地域資源と時流を活かし、農業・商工業・観光等がつながり相乗効果を発揮することで、新たな産業の可能性を導き出したいと考えます。

リニア中央新幹線の開通をはじめ、近い将来、当地域には大きな環境の変化が訪れます。しかし変化は新たな可能性でもあります。私たちは伝統文化に根付いた暮らしを守りながら、地域資源を活かし交流人口を増やし、地域の活力を向上させたいと願います。私たちは変化＝可能性と捉え、人と人との交流を促し、共感を育み、新たな地域を創造していきたいと考えています。座光寺の自然・歴史・文化・ものづくりが、新しい時代に光彩を放つことを将来像に描き、その実現を、地域づくりの主人公である住民一人ひとりの「自ら考え自ら行動するまちづくり」に託します。

② 将来像実現に向けての6つのまちづくり

将来像実現のための主要な施策を次の6つの「まちづくり」に体系化し、住民自ら考え自ら行動することをまちづくりの基本姿勢として、「あなたも私も暮らしやすい 自然・歴史・文化・ものづくりが煌めく新舞台『麻績の里 座光寺』」をめざします。

令和2年から続いた新型コロナウイルス感染症のまん延は、私たちの暮らしに非常に大きな影響を及ぼしました。基本構想・基本計画に基づくまちづくりの取り組みにおいては、感染症の状況を踏まえ、事業の目的や必要性を確認しながら、コミュニティや地域の活性化に結び付く活動を展開していく必要があります。

1 心通い合うコミュニティを創造するまちづくり

将来にわたり地域コミュニティを維持発展させていくために、一人ひとりの参画と協働を基盤に、自立の輪を広げていきます。さらに地域を知り愛着を育む機会を通し、次代を担う若者が帰ってくる、誇りのもてるコミュニティをつくりまします。

今後は交流人口の増加が期待されますが、地域に多様な交流の場を創出し、交流人口を定住人口につなげていきます。あわせて、より多くの住民が参画できるコミュニティ運営を進めます。

2 一人ひとりが地域に学び、生涯成長できるまちづくり

地域を愛し、地域に学び、自ら考え、まちづくりの担い手として行動する「みやましい」人を育成します。このため、誰もが生涯現役で活躍できる環境を整え、スポーツや生涯学習を推進します。

また、地域の人々が結婚して家庭をもち、安心して子どもを生み育てられるよう、地域で見守り支え合います。さらに学校と地域が連携して地域の「主人公」である子どもたちを育てます。

3 自然と歴史・文化を活かし育むまちづくり

先人から受け継いできた豊かで貴重な自然・歴史・文化を、座光寺の魅力・誇りとして次代に引き継いでいくとともに、その利活用に取り組みます。特に、リニア時代を見据えたまちづくりの基本として「2000年浪漫の郷」づくりを進めます。

また、交流と学習を通して「麻績の里 座光寺」にふさわしい地域文化を育み発展させるとともに、地域内外に情報を発信します。

4 健やかに安心して暮らせる住みよいまちづくり

社会生活の基本的ルールを守り、より良好な人間関係の形成に努め、地域住民・隣近所が協力し合い、健康の増進と地域福祉の充実を進めます。

「地域の宝」である自然環境の保全活動を継続するとともに、身近な環境衛生に取り組みます。また災害や事故に適切な対応を行うことのできる、安全安心なまちづくりを進めます。

5 地域特性を活かした元気な産業のまちづくり

座光寺の産業は農業を主力に、段丘の地形特性を活かし発展してきました。

今後はリニア関連事業や「産業振興と人材育成の拠点」エス・バード整備事業等が、産業振興にも影響を及ぼすものと考えられます。

地域の人・もの・技術が有機的につながることで、新たな価値の創出が期待できます。風土を活かした座光寺らしい農業、農商工連携による新たな産業の創造等、地域特性を活かした産業の充実と発展に努めます。

6 人と自然に優しいインフラ整備

座光寺地域はリニア中央新幹線をはじめとする大事業により、生活基盤である住宅地、生産拠点の優良農地等が大きな影響を受けると予想されます。

土地利用計画に沿った開発、変化に応じた土地利用計画の見直しを進めるとともに、関係組織を通じ地域の声を事業者側に届けます。人の暮らしに優しい土地利用と、リニア開通後を見据え地域全体が調和する環境整備を進めます。

■施策の体系

めざす
将来像

基本方針
(6つのまちづくり)

施策

計画

あなたも私も暮らしやすい
自然・歴史・文化・ものがづくりが煌めく新舞台「麻績の里座光寺」
「自ら考え自ら行動するまちづくり」



第3章 6つのまちづくり 施策の展開



① 心通い合うコミュニティを 創造するまちづくり

座光寺はコミュニティとしてまとまりのある自治組織で、「結いの精神」によるさまざまな取り組みが行われています。また春祭り・人形劇などの伝統文化が息づいており、地域の大切な財産となっています。

しかし、人口減少・少子化・高齢化の中、地域コミュニティを維持していくためには、多くの人々の交流が不可欠です。また、次代を担う人材の育成に向けて、若者や子どもたちが地域を知り、地域の将来を自分の問題として考えていくことが求められます。

近年は人間関係の希薄化が問われていますが、コミュニティがうまく機能していく要因として、交流による人と人とのつながりやきずなが見直されています。また自然・伝統・風土を活かした地域探訪などにより、地域を活性化させる方法を考える必要があります。

地域コミュニティは、人と人、人と自然の共生を理念に、できる限り多くの住民が、それぞれの能力や資質に応じて地域づくりに関わる仕組みをつくることが大切です。

(1) 参画と協働を進め、自立の輪を広げます

組合と各地区のまとまりを再確認し、各種団体の活動内容を、地区の連絡会を通じて、いかに組合へ周知し理解を深めてもらえるかを検討します。

また、各種役員の選出が年々難しくなっている現状を踏まえ、一地域で一つの自治会組織である特性を活かして、「自ら考え自ら行動するまちづくり」の精神で、助け合い支え合う活動を通じて、地域の自立の輪を広げます。

- ①住みやすい地域にするために、地域住民は協力し合うことの大切さを理解し、組合加入の促進に努め、活力あるまちづくりに取り組みます。
- ②近所付き合いは、人と人とのきずなが大切です。お花見、新年会など組合の親睦の機会を通じて、組合活動を活発化します。
- ③地域住民は、夏祭り・運動会などの行事に、誘い合い声掛け合って積極的に参加を促し、交流を深めることで住民同士の連帯感を育みます。
- ④連絡会活動を通じ、その場で協議してきたことを地区住民に周知したり、地域の意見を聞いた場にしていきます。
- ⑤多くの住民参加のもと、地域づくりフォーラムなど地域の現況と課題について話し合う機会を設け、諸活動に反映させます。
- ⑥皆さんに楽しんでもらえる文化祭を充実させます。
- ⑦第2次基本構想・基本計画について、さまざまな機会を捉え内容の理解を促し、実践活動につなげます。

(2)郷土愛を高め、若者が帰ってきたい地域づくりを進めます

社会的マナーが子どもから大人まで実践され、住民同士笑顔であいさつのできる地域をめざします。また、郷土愛に満ちた誇りのもてるコミュニティづくりのため、「座光寺探訪」の充実と、ボランティアガイド(子ども桜ガイド・史跡ガイド)等の育成強化を図り、若者が帰ってくる地域をめざします。

地域・郷土に愛着心をもった「みやましい人」を育てることのできる地域をめざします。

-
- ①座光寺地域へのIターン・Uターンを考えている人に、住民の立場から協力し、定住促進につなげるために、座光寺地域の意見を行政に働きかけます。
 - ②あいさつをしたり履物を揃えたりするなどの社会的マナーに、大人から子どもまで全員が取り組みます。
 - ③地域住民が心をひとつに熱くなれる夏祭りを、さらに盛り上げて地域を活気づけます。
 - ④各地区で伝統行事を守り育てます。どんど焼きを、多くの子どもたちが体験できるようにします。



- ⑤地域を知り学ぶための「座光寺探訪」をシリーズ化して開催します。
- ⑥「子ども桜ガイド」「史跡ガイド」を育成するために、組織化を図ります。また「麻績の里検定」を実施し、海外の方にも対応できるようグローバル化し、ガイドのクオリティを高めます。
- ⑦「麻績の里座光寺」の花「しだれ桜」を周知し活用するほか、「座光寺の歌」「座光寺音頭」を伝えて残していきます。

(3)多様な交流の場を創出し、拡大につなげます

地域内の交流では、顔と顔を合わせて交流できる場として、まず組合を、そして地域全体の交流機会を活発化させます。

リニア中央新幹線開業に伴い、観光や仕事で当地を訪れる人の増加が予想されます。それらの人々を地域づくりの一員に招き入れて、交流人口の増加から、さらには定住人口増加につなげていきます。

- ①女性ならではのアイデアやパワーを地域に活かします。
- ②地域づくりに向けて、同じ志をもつ人たちの活動が積極的に展開できるように支援します。
- ③リニア時代を見据えて情報の発信力の強化に取り組み都市との交流を増やし地域の産業の発展につなげていきます。
- ④都市部の住民に対して、座光寺の自然や豊富な資源で「おもてなし」を行い、多くの人を招き入れます。
- ⑤田舎生活を求める都会からの交流や観光農園の活用を検討します。

(4)コミュニティ運営の充実を図ります

少子高齢化社会において、コミュニティが担う役割は多様化し重要になってきています。リニア中央新幹線開通後は、都市化による新住民の増加が予想される中、地域コミュニティが大きく変化することが考えられます。希薄となった人間関係や、個人・家族中心の生活意識の変化は、組合加入者の減少や地域行事への不参加者の増加に通じます。

従来のコミュニティ運営をさらに充実させ、住民が参加しやすい・参加したくなる地域づくりを推進します。

- ①高齢化や家族構成の変化に伴い、地域活動に参加しづらくなった組合への共助による活動支援を行います。
- ②行事参加では、皆で声をかけあい、誰もが参加できるように、快く迎え入れます。
- ③趣味や志を同じくした仲間づくりを推進し、その仲間が核となって地域コミュニティの活性化に貢献できるようにします。





座光寺では、地域を愛し自ら考え行動する人や団体に光を当てることで、世代や地区を超えて活動の輪を広げ、地域全体の取り組みとすることを大切にします。

地域の歴史や文化は私たちの心の拠りどころであり、豊かで貴重な自然環境と相和して私たちに「学びの場」を提供してくれます。古くからこの地域に伝わる方言もその豊かな情感と表現力で人々の交流の輪を広げていく力になります。

地域を愛し、地域の文化や自然などを、世代を超えて学びあい、まちづくりの担い手として自ら進んで提案し行動できる「みやましい」人を育てます。

また、豊かな自然環境や伝統文化、特色ある教育や充実した医療環境の中で、若者が結婚して家庭をもち、安心して子どもを産み育てられるよう、地域みんなで見守り、支え、応援します。

未来を担う子どもたちは地域の「主人公」です。住民や学校などが連携して地域のきずなを深め、6年後も地域を愛する子どもたちの明るい笑い声が響くまちづくりを進めます。

■地域を愛し、自ら考え自ら行動する「みやましい」人づくり

(1)誰もが生涯現役で活躍できる環境をつくります

地域の自然・歴史・文化などを「地域の宝」として見つめ直し、次世代に継承するための学習活動に、より多くの住民が関わることをできるよう、多様な機会をつくり、広く参加を呼びかけます。

「子ども桜ガイド」をはじめとするボランティアガイドや語り部など、世代を超えて「地域の宝」を発信できる人材を育成するとともに、まちづくりの担い手として活躍できる場を提供します。

事業の実施に当たっては、若年者や女性、地域や世代を超えた自由で柔軟な発想を取り入れ、まちづくりの新たな担い手として共に手を携えて活力ある地域づくりに取り組んでいきます。

①地域固有の自然・歴史・文化などがもつ価値をみんなが認め合い、「地域の宝」として次世代に継承するために、古老や有識者とともに地域内を巡るなどして、学び合う場をつくります。

②「子ども桜ガイド」、「史跡ガイド」をはじめとするボランティアガイドや語り部を育成・組織化し、その活動を支援します。

- ③竹宵・人形劇・麻績太鼓など、子どもたちも参加できる文化芸能活動を支援し、新たな伝統として継承していきます。
- ④活力あるまちづくりに子どもや若者・女性の自由で柔軟な発想を取り入れるため、地域の内外を問わず誰もが自発的に集い、学ぶ活動を支援します。
- ⑤まちづくりの先進地域や地元出身者（東京ふるさと高陵会など）との交流を通して、座光寺の特色を見つめ直します。
- ⑥自主的なまちづくりや地域振興活動に意欲的に取り組む人や団体に光を当て、その活動を奨励・支援します。

(2)スポーツを振興します

スポーツは健全な心と身体を育むとともに、住民相互の交流や親睦を深める機会でもあります。運動会や各種スポーツ大会をはじめ、指導者講習会などを住民と各種団体が連携して運営し、年齢や身体状況に応じて誰もが気軽にスポーツに親しめる機会をつくります。

地域と学校の連携を深め、スポーツの普及に欠かせない指導者の発掘と育成に取り組みます。

- ①地域住民がその年齢や身体状況に応じて誰もが気軽に参加できるスポーツの紹介や、大会を開催します。
- ②運動会や各種スポーツ大会を通じて地区を超えた住民相互の交流や親睦を深める機会をつくります。
- ③ニュースポーツを含めた指導者講習会などの開催、参加の働きかけを通じて、指導者の発掘・育成に取り組み、地域・他地域におけるスポーツの普及に取り組みます。
- ④マレットゴルフ場や体育館など地域内のスポーツ施設の利活用を進めるとともに、施設の充実が図られるように行政に働きかけます。
- ⑤大人も小・中・高校生も参加することができる「高陵わくわくクラブ」の活用などにより、世代を超えたスポーツの振興に取り組みます。

(3)生涯学習を推進します

住民の誰もが、生涯にわたり生き甲斐をもって学ぶことができるように、各世代のニーズに応じた多岐にわたるテーマ・講師による学習の機会を設けるなど「学びの場」を提供します。

- ①現在の公民館講座を継承しつつ、環境・人権・福祉・教育など住民の要望に添った今日的なテーマを追加・拡充します。
- ②住民の学習意欲に応えるために、各世代のニーズに合った適時適切な講師による学習の機会を設けるとともに、学習グループの結成と活動を支援します。
- ③古くからこの地域に伝わる方言の意味合いを理解し、地域独特の言葉のもつ豊かな情感と表現力を次世代に継承できるように取り組みます。
- ④分館図書館の利用促進を図るとともに、蔵書や施設の充実を行政に働きかけます。
- ⑤専門知識等を有する地域在住者・出身者などの人材を発掘・集積し、必要に応じて学習・趣味グループの活動やまちづくりに活かします。

■地域みんなで支える結婚・出産・子育て

(4)結婚・子育てを地域全体で見守り、支え、応援します

子どもは地域の「主人公」です。地域住民と関係する組織・団体が連携して子どもの成長を見守り育む仕組みづくりに取り組み、その家族を地域全体で支え、応援します。結婚して家庭をもち、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに取り組みます。

- ①家庭では、あいさつ・掃除・手伝いなど親子のふれあいの時間を大切にして、自ら進んで行動する「みやましい」子どもを育てます。
- ②「つどいの広場」や乳幼児教室、保育園や児童センターなどを有効に活用し、子育て経験者からアドバイスを受けたり、親同士が子育ての悩みなどを語り合える機会を提供するなど、安心して子育てできる環境を地域全体で支えます。
また、施設の運用がより利用者のニーズに沿ったものとなるよう働きかけます。
- ③育児に関する相談窓口を活用し、地域全体で安心して子育てができるよう支援します。
- ④自然とふれあいながら安心して家族で憩い、子どもの笑い声が響く公園・遊具の整備の実現や充実を関係団体に働きかけます。
- ⑤公民館活動や地域行事への親子参加などを通じて、地域の人たちとの交流の場をつくり、笑顔であいさつを交わし合える関係を築きます。
- ⑥通学路の美化と整備に積極的に協力し、子どもたちが安全に通学できる環境を整えます。
- ⑦結婚相談員等と連携して「出会いの場」を企画・実施し、地域をあげて婚活を支援します。

(5)学校と地域が連携を深めます

「座光寺の子どもを語る会」や地域行事などを通じて、学校・家庭・地域が情報を共有しながら相互理解を深め、連携を密にして子どもを見守り育みます。エス・バードが立地する地域特性を活かすとともに、あらゆる機会をとらえて「交流の場」をつくります。

- ①「座光寺の子どもを語る会」や「飯田コミュニティスクール」を軸に、学校・家庭・地域が情報を共有し連携を深め、小中連携一貫教育を地域から支えます。
- ②学校開放や運動会・音楽会などの学校行事に地域住民も進んで参加し、学校に対する理解を深めます。
- ③ものづくり教室や地域の自然・歴史・文化を題材にした授業に、地域住民が講師として協力・参画します。
- ④地域活動への学校の取り組みを支援します。
- ⑤あいさつ運動や「子ども見守り隊」のパトロールなどを通して、地域をあげて子どもの安全を見守ります。
- ⑥どんど焼き・春祭り・夏祭り・人形劇祭りなどの地域の行事や各種公民館事業などに、子どもも大人も積極的に参加し交流を深められるよう、学校・PTA・保育園・保護者会と連携して取り組みます。
- ⑦エス・バードに集う教授や学生・研究者、産業センター等と住民が相互に友好・有益な関係を築けるよう、あらゆる機会を捉えて「交流の場」をつくります。



③ 自然と歴史・文化を 活かし育むまちづくり



◆美しい自然に親しみ守る環境づくりを進め次代に残します。

◆座光寺の歴史・文化を学び、保存・継承し、情報を発信します。

座光寺は上・中・下3段の段丘で形成され、座光寺富士を頂点に天竜川までの傾斜地形を成しています。各段丘は、それぞれが特徴をもって豊かで変化に富んだ自然を保っています。

この恵まれた自然環境の中で、古(いにしえ)より東西の結節点としての貴重な地域とされた証がそこそこに見られます。飯田古墳群を代表する「高岡第1号古墳」、中世の山城の特徴を残す「南本城城跡」、奈良平安時代に伊那地方の政治の中心的な役割を担った「恒川官衙遺跡」などは、日本史を語る上で重要な遺産です。さらに「旧座光寺麻績学校校舎」は、座光寺の人々の想いを今に伝える、地域を代表する貴重な文化財です。

これら先人から受け継がれてきた豊かで貴重な自然・歴史・文化など誇るべき財産を近隣他地域と連携・共存することを視野に、地域全体で学び、育み、楽しむことを通して、その価値を高め、次代に引き継いでいくとともに、地域の内外に情報を発信します。

■自然の保全と活用

(1)美しい自然を次代に継承します

私たちの周りにある四季折々の花や草木、果樹園や水田、里山や小川の景色などの自然の景観を、次世代に豊かなままに残し伝えます。

- ①みんなに親しまれる里山として利活用するため、草刈りや枝打ちなどの整備作業を広く地域全体に呼びかけて実施します。
- ②「南本城城跡」などの自然・歴史環境を活かし、四季を通じて身近に足を踏み入れることができる里山として、遊歩道などを整備します。

- ③「座光寺富士」を地域のシンボルの山と位置付け、地域住民が親しめるよう、案内板などを立てて登山道を整備します。
- ④天竜川河川敷の「水辺の広場」・マレットゴルフ場などを、地域住民の憩いの場として整備するとともに、その活用に取り組みます。
- ⑤パノラマファーム大門委員会を中心として農地保全に取り組みながら、大門原から南アルプスを一望できる景観の良さを活かして、多くの人が訪れる座光寺の新名所になるよう取り組みます。
- ⑥座光寺の花に指定した「麻績の里舞台桜」をはじめとする座光寺のしだれ桜や一本桜の周知を行うとともに、住民みんなで保護育成します。

(2)自然に触れ親しむ環境をつくります

自然に触れ親しむことのできるきれいな川と里山を維持します。

- ①地域内の小川を汚さないように努め、清らかな水が流れ、魚のすめる水質環境を保つため、BOD(生物化学的酸素要求量)値2mg/ℓ以下を維持します。
- ②地域の環境が大きく変化する中で、ホタルやオオムラサキが舞いアサギマダラが訪れる環境を維持します。
- ③自然とふれあい、子どもと大人が安心して共に楽しむことができる小規模公園などの整備に努めます。

■2000年浪漫の郷

(3)歴史・文化を保存し継承します

座光寺には2つの国史跡「恒川官衙遺跡」「高岡第1号古墳」をはじめ、地域内に伝わる史跡・文化財などが多数あります。これらを中心とするエリアを「2000年浪漫の郷」と称し、豊かな自然と歴史・文化資産を活用した地域づくりを進め、その保存・管理活動を継続していきます。

また、「学びの場」「癒しの場」としての環境整備を促進するとともに、こうした活動を通じて、県や市に対して現段階より上の文化財指定を働きかけます。

- ①2つの国史跡である「恒川官衙遺跡」と「高岡第1号古墳」を連動させた保存活用方法等について、市に地元意見を提案します。
- ②旧座光寺麻績学校校舎、石川除については、現段階より上の文化財指定をめざして取り組みます。
- ③恒川清水の湧水復活後の管理・活用について、恒川史跡公園(清水エリア)と連動させて進めます。
- ④「2000年浪漫の郷」関連のパンフレット等の見直しを進め、遊歩道の整備、案内板やパンフレットスタンドの設置、周遊コース策定のほか、「浪漫の郷座光寺案内人」の研修等に取り組みます。
- ⑤地域に受け継がれた文書等の史料を集積し、保管・展示場所を確保します。
- ⑥小中学生・若者・女性を対象としての自然体験学習や、講演会などを開催します。
- ⑦「2000年浪漫の郷」づくりに向けて地元維持管理団体と外部機関との定期的な情報交換、史跡等の専門家からの保存・継承に関する意見聴取などを行います。
- ⑧主な史跡の駐車場・トイレなどの環境整備を市と連携・協力して進めます。

(4)歴史・文化の活用に取り組みます

「2000年浪漫の郷」の観光資源としての活用を目指すとともに、南信州観光公社などと連携して見学者や観光客の増加につなげ、地域産業の活性化となるよう利活用を図ります。

- ①旧座光寺麻績学校校舎を保存することにとどまらず、住民のアイデアを募って様々なイベントなどに積極的に利活用します。
- ②見学者や観光客増加につなげるために、リニア中央新幹線長野県駅(仮称)から元善光寺駅までの動線となる道路・新交通システムなどの整備状況を見ながら、その方策を検討します。

■地域文化の創造

(5)交流と学習を通して文化を継承し発展させます

交流と学習を通して座光寺を愛する心を育むとともに、多様な文化を保存育成し、「麻績の里座光寺」にふさわしい文化を継承し発展させます。

- ①座光寺の自然・歴史・文化を学び、地域への関心を高め、多くの史跡や芸能を活かした「麻績の里 座光寺」にふさわしい文化を育みます。
- ②竹田人形が多くの人々に親しまれ地域に根ざすように、竹田人形館と協働して「竹の子会」などの学習や公演活動を支え、諸施設の利活用として庭園を眺めながらの演奏会やお茶会などを企画します。
- ③獅子舞・屋台囃子・座光寺音頭など、地域に根ざしている伝統芸能を保存継承するための担い手や保存会などを育成します。
- ④春は「桜」、秋は「菊」の視点で菊づくりや展示を地域ぐるみで進め、「菊づくりの里」をめざします。

(6)地域文化の情報を発信します

座光寺の文化を地域の人々が知るための情報を提供するとともに、地域外への情報発信を積極的に行います。

- ①広報紙・ホームページ等を通じて特別委員会など地元維持管理団体の活動内容を広く地域住民に周知するとともに、外部に対し観光誘致を行うなど多方面にわたる情報発信を積極的に行います。



④ 健やかに安心して暮らせる 住みよいまちづくり



座光寺地域でも少子高齢化が進み、医療・買い物などの生活困難者が増加しています。また急速な社会変化の中で、家族の在り方が変わり、高齢者の独り暮らしや老老介護世帯が増加しています。恵まれた自然環境の中にあっても、リニア中央新幹線関連工事に伴って地域の急激な変化が予測され、さまざまな事故や犯罪が増加する心配もあります。

社会生活の基本的ルールを守り、地域住民の自助・共助のもとに健康の保持増進や社会福祉の充実をめざし、防災や減災のまちづくりを推進します。

■健康と福祉のまちづくり

(1) 共助の心で地域福祉の向上に努めます

今までに培われた地域に根差した福祉活動との連携を図りながら、住み慣れた地域での生活が維持できるように、思いやりと優しさのある地域づくりを心がけます。

地域の応援により、安心して子育てや高齢者の見守りができるような環境づくりを進めます。

- ①一人暮らしや身寄りのない高齢者が安心して生活できる交流の場を設け、地区住民で見守り活動を進めます。
- ②公共交通の利用促進、移送サービスの拡充等の継続を図りながら、高齢者・要支援者の通院や買い物支援を進めます。
- ③「誰もが安心して暮らし続けることのできる地域」をめざして、地域住民や協力事業所、民生児童委員の身近な見守り活動で、小さな異変への早期対応につなげます。
- ④支援を必要としている人や福祉サービスに関するニーズの把握に努め、必要な支援策について調査・検討します

(2)健康寿命を延ばす取り組みを進めます

一人ひとりが心身ともに健康であることは、家族はもちろん、地域が生き生きと輝くことにつながります。地域の人たちと支え合いながら、スポーツ活動や学習会を通し積極的に健康維持や健康づくりを心がけ、健やかに長生きできるように努めます。

- ①高齢者が生き甲斐をもち充実した生活が送れるよう、生涯学習の機会を提供するほか、伝統文化の継承や次代を担う人材の育成等で活躍する機会を設けます。
- ②楽しむことを大切とした生涯スポーツの機会を提供します。
- ③「自分の健康は自分で守る」ことを基本に、地域で支え合いながら年代に応じた健康づくり・体力づくりなどを進めます。
- ④住民の健康意識向上のため、地区で呼びかけを行い、家族と共に健康診断の受診率を高める努力をします。
- ⑤高齢化社会を踏まえ、誰もが社会との関わりを保てるような、交流の場を支援します。

■快適で安全安心なまちづくり

(3)身近な足元の環境衛生に取り組めます

適切な環境情報を提供し、家庭や事業所から排出されるゴミの適正な分別処理及び、不法投棄防止を進めるとともに、環境美化活動の意識の啓発に努めます。持続可能な地域社会をめざして、地球環境保全につながる河川の水質の向上に努め、ホタル・トンボが舞い、シジミ・メダカ等のすむ快適な地域環境づくりをめざします。

- ①上郷地区、高森町にも呼びかけて、土曾川・南大島川の荒れた雑木林・竹林の整備を河川管理者等に働きかけます。
- ②常に環境衛生に心を配り、行事の時だけでなく日常的なゴミゼロウォーク(ゴミ袋を持参しながらのウォーキング)の普及に努めます。
- ③全域のゴミ収集場所への、指定日表示看板の整備を進めます。
- ④家庭でのゴミの分別、リサイクルの徹底を図るため、ビン・ペットボトルのリサイクルステーション利用を進めます。
- ⑤ゴミのポイ捨て防止の強化を継続するとともに、「ゴミを捨てない、放置しない」意識を啓発し、捨てられない環境づくりを進めます。
- ⑥自らの地域は自らの手で守り育てるため、道路清掃・雪かき・草刈りなど環境整備活動を組合ごとに実施します。



(4)災害に強い地域づくりに努めます

自分の命は自分で守るという「自助」の防災意識を高めるとともに、防災訓練を通じて自主防災組織の機能の充実を図り、地域での「共助」の仕組みづくりに努めます。

- ①自然災害に備え、安心して避難できる避難場所を各地区に確保するよう工夫します。
- ②自治会がリードし、座光寺地域の防災ハザードマップを自ら確認し、予想される危険箇所の再認識に努めます。
- ③年1回の防災訓練を継続し、より実践的なものに高めていくように努めます。
- ④家庭内で災害への備えが十分できるよう、防災対策に努めます。
- ⑤防災世帯台帳や「支え合いマップ」の整備・見直しを図り、幅広く活用します。
- ⑥地域の防災減災をめざし、活動の中心となっている赤十字奉仕団・消防団の組織活動を支援します。
- ⑦「共助」として非常食料の備蓄をします。

(5)防火防犯と交通安全に取り組みます

社会のルールを守り合い互いに信頼し合うことができる地域をめざして、人と人とのつながりを構築しながら、防火防犯意識の向上と犯罪や交通事故防止に努めます。

- ①住民の安心安全を確保するために、防犯灯を適切に配置し、夜でも安心して歩ける地域になるよう努めます。
- ②自治会各委員会と警察署との連携によるパトロールや啓発活動によって、犯罪の防止や防犯意識の向上に努めます。
- ③交通安全運動・安全教室・交通少年団・少年少女消防クラブ等による防火・防犯や交通安全の啓発活動を推進します。
- ④犯罪のない地域をめざすため、日常のあいさつや声かけを心がけお互いの信頼関係を醸成します。
- ⑤地域の消火栓・ホース箱を確認し、消火栓周りの除雪など、防火施設の管理に努めます。





⑤ 地域特性を活かした 元気な産業のまちづくり

座光寺の産業は、段丘による地形的特性を活かしそれぞれ特色をもって発展してきました。

上段は、桃・梨・りんごなどを生産する優良な果樹地帯が広がっています。また、フルーツラインから望む南アルプスの眺望は素晴らしいもので、観光的魅力が高まっています。さらに座光寺スマートインターチェンジや中央道とリニア中央新幹線長野県駅（仮称）を結ぶアクセス道路（座光寺上郷道路）の整備事業により、飯田市の北の玄関となると共にその利活用に期待が寄せられています。

中段には、元善光寺をはじめ旧座光寺麻績学校校舎・竹田扇之助記念国際系操り人形館・麻績の里舞台桜などに多くの観光客が訪れており、国道153号沿線を中心とした商業集積が進んでいます。またエス・バードは航空産業を中心に最先端の研究・開発や、地場産業の人や企業が集まり活動をしています。

下段は、優良な水田地帯が広がり、水産業・施設野菜なども盛んに行われています。さらに、地域全般にわたって良質な市田柿の生産地になっています。また近年、製造業などの企業が進出しています。

しかし、特に主力産業である農業においては、担い手の高齢化や後継者不足、それに伴う遊休農地の増加が課題になっています。農・商・工・観光の各産業の振興には、地区内外から振興の起爆剤となる新たな人材を確保・誘致する必要があります。

このような現状を踏まえ、交流人口の拡大と新たな人材確保・誘致に向けて、座光寺スマートインターチェンジやリニア中央新幹線長野県駅（仮称）を結ぶアクセス道路を活用し、既存の観光資源や今後整備される恒川史跡公園、果物など魅力ある地域資源を地区内外にPRし座光寺のファンを増やす取り組みや、地域の特産品を使った新しい産業の創出による雇用の確保など、地域の特性を活かした産業の充実と発展に努めます。

■ 農業

（１）風土を活かし座光寺らしい農業を継承します

受け継がれてきた営農基盤を維持し、生産者と地域の消費者（住民）が一体となって、交流人口の増加を積極的に活かす魅力ある農産業づくりに取り組みます。

- ①農業振興会議が主体となり、市田柿に代表されるような地域の風土を活かした特色ある農業を推進します。
- ②座光寺の農業をより魅力あるものとして、後継者対策に努めます。特にスマート農業は、農業従事者の負担の軽減につながるものであることから、その普及に努めます。
- ③地域の農業を継承しつつ、遊休農地や耕作放棄地の対策に加え、農業のもつ他面的機能の維持を図ります。
[多面的機能：国土の保全、水源の涵養(かんよう)、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能]
- ④リニア中央新幹線長野県駅(仮称)・座光寺スマートインターチェンジの整備により、都市部と近くなることから、体験農業・農家民泊などの事業を充実させるほか、滞在時間を延ばす施設などの設置を研究し、6次産業化の取り組みを推進することで交流人口の増加をめざします。
(ふるさと応援倶楽部・パノラマファーム大門など)
- ⑤地域住民が、座光寺の農業の素晴らしさを知り、農業の応援団として積極的に地産地消、農家との交流、農業の魅力を伝える活動に参画します。



■農商工の連携(6次産業化)

(2)農商工の連携を進め6次産業化を図ります

各団体間の緊密な連携のもと、今後取り組みが求められるSDGsに配慮した座光寺ならではの特産品を研究・開発し、広く住民の参加も得て、地域の名物として定着させ、内外に販売拡大できるように取り組みます。

SDGs…「持続可能な開発目標」と呼ばれる国際社会共通の目標で、17の目標と169のターゲット(具体目標)を、「経済」「社会」「環境」のバランスを保ちながら達成しようとするものです。ここでは、地域の歴史・文化・自然・社会などを背景としたり、環境に配慮したりすることを指しています。

- ①商工会・農業振興会議などを主体に定期的に会議を開催し、共通の認識のもと産業の振興を図ります。
- ②「座光寺まんじゅう」などの名産品や果物などの特産品を用いた新たな産品や、郷土料理の開発、飲食店での地元産品を用いた新メニューの提案を、農業者・商業者が協力して行い、相乗効果によって、地域産業の発展をめざします。
- ③地域住民が協力して、旬を活かした産品の提案やイベントを検討するほか、地域外への手土産などに地元産品を積極的に利用し消費拡大と地域のPRを行います。

(3) エス・バードの活用を図ります

エス・バードの産業振興への活用に向けて、産業センターでの地場製品の取り扱いや施設の活用、研究機関との交流機会の検討など関係機関との連携を強め、地域の発展につなげていきます。

- ① エス・バードが地元商工業の発展につながり、住民にとっても有意義な施設となるよう、地場製品の売り場設置やイベントの開催などを関係機関と連携して取り組み、共に発展できるよう努めます。
- ② 関連企業や新たな企業の誘致による雇用機会の拡大や信州大学新学部の誘致など、子どもたちが将来地元で働く動機づけとなるような、地域の人口増加に向けたエス・バードの役割を関係機関に要請します。

■ 観光

(4) 地域の人と資源を活かした観光振興をめざします

地域資源を見つめ直し、座光寺の魅力を内外に発信するとともに、来訪者にその魅力がより強く印象づけられるよう、人材の活用と環境の整備に取り組みます。

-
- ① 関係者が中心となり、「2000年浪漫の郷」に代表されるような地域の観光資源を見つめ直し、その価値をより一層高め、交流人口の増加に地域一体となって取り組みます。
(元善光寺・恒川史跡公園・古墳・南本城城跡・旧座光寺麻績学校校舎・竹田扇之助記念国際糸繰り人形館・麻績の里舞台桜・麻績神社春祭り・桜まつり・南アルプスを望む風景・果樹園の風景・おいしい農産物・名産品など)
 - ② 地域の交流人口増加の起爆剤となりうるよう、新たな施設の設置やイベントなどの研究を進めます。
 - ③ 「子ども桜ガイド」のような地域を紹介する人材の活動により、地域を訪れる皆さんを温かくお迎えします。



⑥ 人と自然に優しい インフラ整備



座光寺地域では、リニア中央新幹線が開通することにより、大きな変革を迎えようとしています。アクセス道路整備に関連して座光寺スマートインターチェンジが既に開通し、リニア本線や保守基地及び座光寺上郷道路・国道 153 号北改良・県道市場桜町線等、その他の整備事業も進行しています。

一方、座光寺の幹線道路網の状況は、横方向には、山麓線・県道飯島飯田線・フルーツライン・国道 153 号・農免道路等がありますが、縦方向には上段・中段・下段の段丘による地形的制約もあり、十分な整備ができていません。この度、リニアアクセス道路により、唐洞線の難題も解消されることとなり、地区内循環道路網が整備されて緊急時のスムーズな対応が期待されます。

この他、恒川史跡公園整備や「産業振興と人材育成の拠点」エス・バードも含めた大型プロジェクト等の事業推進により、生活基盤である住宅地・生産拠点の優良農地(果樹園・田・畑)等がその中に含まれ、大きな影響を受けると予想されます。

「人と自然に優しいインフラ整備」を進めるために、土地利用計画に沿った開発・変革に合わせた土地利用計画の見直しを進めるとともに、地域の声をリニア地域づくり推進会議などの関係組織を通じ事業者側に届け、活力ある地域形成を進めます。

■土地利用

(1)土地利用計画を推進し、見直します

調和ある土地利用は、快適な暮らし・自然環境の保全・土地の高度利用・産業振興などの面から大切です。当地域の大きな変革を踏まえて座光寺地域土地利用計画（平成21年度策定）の見直しを行政と共に行います。

- ①社会情勢の変化に柔軟に対応した土地利用を進めるために、関係機関と連携しながら土地利用計画の見直しを行うとともに、土地利用計画の適切な運用管理を行います。

- ②見直しに当たっては、土地利用計画運営委員会を中心に、座光寺独自のルールや隣接地区との整合性等について検討します。
- ③遊休荒廃地の活用に努めます。
- ④乱開発を防止するため、業者・住民に計画の浸透を図ります。
- ⑤リニア及び関連道路事業等により用地を提供する方の新たな用地の確保については、適切な土地利用を鑑みて関係機関に働きかけます。

(2)美しい景観の保全(確保)に努めます

先代から守られてきた郷土の美しい景観を、郷土の宝として次代に引き継いでいきます。

.....

- ①地区内のビューポイントを再発見・再認識し、住民に周知して、保全への協力を働きかけます。
- ②土地利用の見直しに当たっては、景観を損なわないような計画に努めます。

■施設整備

(3)道路・河川を整備し、地域の活性化と災害に備えます

産業経済、日常生活にかかせない道路・水路整備は、将来を見据えた計画及び継続性をもって事業推進を行わなければなりません。

座光寺地域を循環する基幹道路については引き続き整備促進を働きかけます。

また近年、異常気象によるゲリラ豪雨、耕作放棄地の増加、宅地化等により、予測できない大きな災害が発生していることから、河川・井水・側溝等の整備促進を働きかけ災害に備えます。

.....

◇道路整備

- ①麻績の里文化ゾーンへのアクセス改良を働きかけます。
- ②万才線～湯ヶ洞線への改良にあたっては、地元の意向を反映するよう求めます。
- ③三遠南信自動車道へのアクセス向上を働きかけます。
- ④生活道路全般について、
車や歩行者の通行に支障をきたす道路や交差点は、危険度や緊急度を考慮して関係機関に改良を要請します。

◇河川・井・側溝水路整備

- ①流れを妨げる堆積土、流木の撤去、また護岸・堰堤の補強補修を関係機関に求めます。
- ②井水・側溝の未改修な箇所は、排水能力を高めるため、2次製品を用いた改修を関係機関に働きかけます。
- ③河川整備にあたっては、水質・自然環境の維持のために、親水護岸など水とふれあえる整備を関係機関に求めます。
- ④要望箇所の改修施工率 50%をめざし働きかけます。

(4)住宅用地の確保と住環境の整備を働きかけます

リニア関連事業の用地提供のため移転を余儀なくされる方々の代替住宅地や、座光寺に魅力を感じて住んでみたい方々の住宅地を確保するなど、暮らしやすい地域づくりをめざします。

.....

- ①移転先の集約化やインフラ整備を働きかけます。
- ②移転者が座光寺で住み続けられるよう行政と一緒に取り組みます。
- ③空き家等(住宅・工場・店舗などの空き家建物とその敷地、塀や立木なども含みます)を把握し、

行政と協力して地域の安全と防犯に努めます。

④公共交通（JR・循環バス・乗り合いタクシー）維持のため利用促進に努めます。

（５）潤いのある生活のために公園を整備します

子育て・コミュニケーション、住民の憩える場所として公園は大変重要です。周辺には自然がいっぱいの座光寺です。自然を利用し公園の整備維持に努めます。

①恒川官衙遺跡及び高岡第1号古墳の史跡公園整備は、「2000年浪漫の郷」構想のなかで反映実現に努めます。

②ホタル・沢カ二等の生物が見られる、自然にとけこんだ水辺の公園の環境維持に努めます。

③都市計画公園「元善光寺公園」の整備を働きかけます。

（６）リニア中央新幹線及び関連道路の整備に協力します

リニア中央新幹線及びリニア関連道路は地域の発展につながる条件を与えてくれます。この事業が住民にとって適切に行われるよう積極的に関わります。

①リニア中央新幹線整備事業に協力します。

②交通の利便性が高まるよう、座光寺スマートインターチェンジ・座光寺上郷道路・国道153号北改良・県道市場桜町線及び関連市道並びにJR飯田線元善光寺駅の整備事業に協力します。

③リニア関連施設が住民の生活と共存できる施設となるよう、関係機関に働きかけます。



第4章 構想推進のために（再掲）

1 推進体制

「座光寺地域自治会」は「地域振興会議」を最高執行・議決機関とし、その下に5委員会と特別委員会を置いています。

「地域振興会議」は「自分たちの地域は自分たちでつくる」という理念のもとに、基本構想・基本計画の実現をめざし各委員会の活動などを調整し、構想の進行管理の役目も担って地域自治を進めます。

人口減少や高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響などで活動の継続が困難になっているという声も聞かれるようになっていきます。知恵を出し合いながら、効率的・合理的な組織体制づくりや運営を心がけます。

（1）座光寺地域自治組織図

（別表：28ページに掲載）

特別委員会

特別委員会には「自治委員会傘下の特別委員会」と「有志により組織された特別委員会」があります。

〔自治委員会傘下の特別委員会〕

地域の特定の課題や、5委員会では対応が困難な課題について検討し活動します。

○土地利用計画運営委員会

座光寺地域がめざす良好な土地利用を図るため、座光寺地域土地利用計画の適切な管理・運用や継続的な見直しを行います。

○リニア地域づくり推進会議

リニア中央新幹線関連事業により著しい生活環境の変化が想定されることから、地域内に引き続き居住し安心して快適な生活の確保を図るため、諸課題に的確に対応・協議する活動を行います。

○2000年浪漫の郷委員会

座光寺には多くの史跡・文化財があります。これらを中心とする区域を「2000年浪漫の郷」と称し、数ある歴史文化や景観等を活かして、市民の憩いの場や都市との交流、学習の拠点としてまちづくりを推進するために必要となる事項を協議するとともに、その実現に向かって活動を行います。

○恒川史跡公園整備推進会議

「恒川官衙遺跡」史跡公園整備事業の実施にあたり、市民の憩いの場や都市との交流と学習の拠点としてまちづくりを推進するため、及び、地域内に引き続き居住し安心して快適な生活の確保を図るため、諸課題に的確に対応・協議する活動を行います。

〔有志により組織された特別委員会〕

基本構想・基本計画に掲げた特定の事項を、専門的かつ長期的視野をもって取り組みます。

○麻績の里振興委員会

南本城城跡・旧座光寺麻績学校校舎・竹田人形館・麻績の館・麻績会館・元善光寺界限などの「麻績の里文化ゾーン」の一体的な振興をはじめ、座光寺地域全体の文化度の向上を図る活動を行います。

○水辺の広場委員会

天竜川右岸阿島橋周辺河川敷を、子どもから高齢者まで気軽に楽しめる水辺の公園として整備

し、地域の貴重な資源として活用を図る活動を行います。

○麻績の里ふるさと応援倶楽部

地域づくりを行っているさまざまなグループのネットワークをつくり、誰もが自由に企画などに参加できて、意見を出したり交流したりすることができる場づくりを進めるほか、座光寺地域の情報発信を行います。

○歴史に学び地域をたずねる会

地域住民の地域への誇りと愛着を深め、地域の文化度の向上に資するために、地域学を興すとともに、麻績史料館を核として地域史料を総合的に収集・保全・活用する活動を行います。

○パノラマファーム大門

最上段の大門原の遊休農地を活用し、交流を核とした新たな農業の創出をめざし、また、リニア時代に備えて、座光寺（飯田）が目的地のさきがけとなるよう知恵を出して取り組みます。

（2）座光寺地域自治組織編成の意図

- ①自らが地域の課題を見出し自ら解決する姿勢と、委員会同士が連携協力・切磋琢磨しあう関係を大切にします。
- ②少子高齢化の進む中、将来にわたって安定的に自治組織が構成できるように、世帯数50戸に満たない地区では、隣接する他の地域と合同で選出区を構成することができるようにします。
- ③委員会活動の継続性を保つため、委員はできるだけ継続してもらうことを目標とします。また、委員経験者のアドバイザーが、必要に応じて助言し役員改選時の運営を円滑にします。
- ④地区自治会の強化のため地区長には、副地区長などの地区役員経験者を充てます。また「連絡会」には各委員会支部長を加え、住民からの意見の吸い上げ、施策の住民への周知と理解を大切にします。

2 効率的な運営

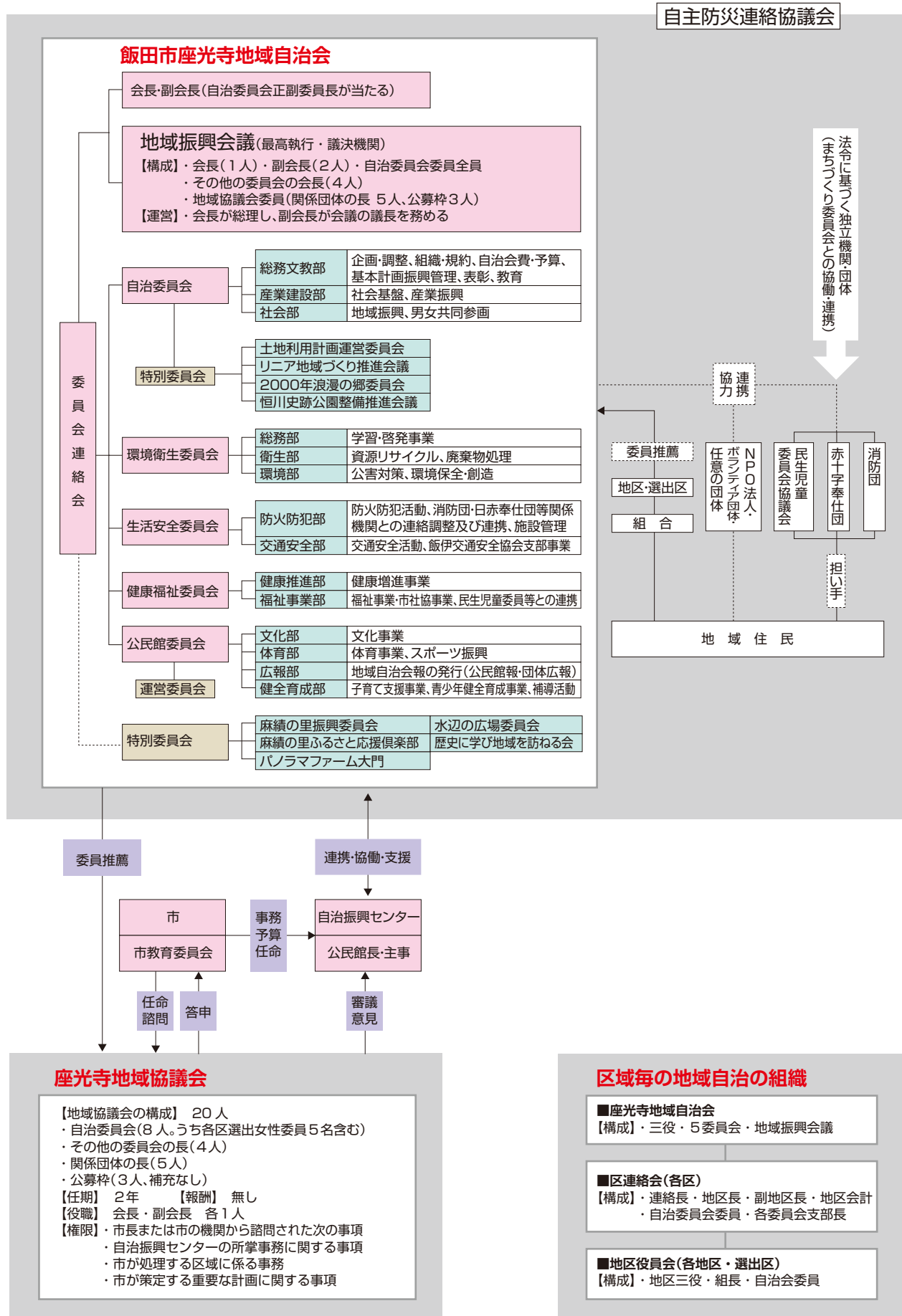
地域自治は、地域住民の創造的な発想や積極的な取り組み、行政との緊密な連携が必要で
す。また、地域自治の財政基盤は、自治会費と市からの交付金です。自治会費は、地域に住所
を有する個人及び事業所を会員とし、総ての会員に納入をお願いします。

きびしい財政事情の中、地域自治を進めるための尊いお金であることを念頭に、効率的で
適正な財政運営に努めなければなりません。

-
- ①自治会は、基本構想に関わる事項などについて行政の施策や考えを学ぶ機会を設けます。
 - ②自治会費は公平公正な負担を心がけるとともに、広報や諸行事への参加の働きかけなどを通
して自治会への理解を深め、納入率を高めます。
 - ③自治会予算は提出された事業内容を審査し予算付けします。予算付けにあたっては、基本構想
の実現・費用対効果などの面から、地域振興に関わる機関や任意団体も含め、公正公平な配分
に心がけます。
 - ④地域外への情報発信及び地域内の情報周知に、広報紙・ホームページを積極的に活用してい
きます。
 - ⑤自治活動のアイディアを生み出すたまり場的施設として整備した、自治会事務所「お寄りなん
処」を積極的に活用します。

座光寺地域自治組織図

(R5.03)



座光寺は縄文時代・弥生時代の遺跡の多いところでもあるが、古墳時代・奈良時代の遺跡には大きな特徴がある。古墳の数は75基以上あって、松尾・竜丘と共に古墳の密集地帯である。中でも、高岡1号古墳・畦地1号古墳・北本城古墳は、渡来人の手によって築造された飯田地域では数少ない渡来人系の古墳として注目されている。善光寺縁起で伝えられている本田善光は渡来人ではないかといわれている。古い時期の縁起によると、阿弥陀如来を伝えた人は、秦巨勢太夫または若麻績東人と呼ばれ、渡来人にかかわりそうな名でもある。これらの渡来人の集団が座光寺辺りを拠点にしていたわけで、高岡1号古墳の東側一帯に隣接する「伊那郡衙（恒川官衙遺跡）」にかかわる人々かもしれない。

奈良時代の伊那郡は5つの郷に分かれている。その中の一つが「麻績郷」である。この範囲は、天竜川西側の飯田松川から片桐松川の間と推定されている。その中央辺りの座光寺に伊那郡衙があったので、座光寺では江戸時代の終わり頃から明治初年にかけて「麻績の里」と呼ばれたことがある。その証しの一つに麻績神社・麻績小校の名が残されている。

平安時代の「三代実録」に著された信濃定額五寺の一つ「寂光寺」は座光寺にあったと推定され、各所から古瓦が出土している。「じゃっこうじ」が転訛して「ざこうじ」になったという説がある。これとは別に、阿弥陀如来がこの地を去った後、残された座の臼が光を放つという古説から「座光寺」と呼ばれたともいわれている。鎌倉時代に書かれた書物によると、本田善光は宇沼の里とか麻績の里の住人と書かれているので、座光寺辺りを麻績の里と呼んだ所以もある。

鎌倉時代にこの地に土着した神氏系の座光寺氏によって支配され、北本城・南本城が築城され、現在なお原型に近い姿で残されている。座光寺の名が出てくるのは定かではないが、座光寺氏の出自からすれば鎌倉時代には「ざこうじ」と呼ばれていたものと思われる。

天正3年、美濃岩村城の戦いで座光寺氏が没落してから、松岡氏の配下にあった座光寺は、松岡貞利から安堵状を受けた今牧八郎左衛門を中心にして、近世の座光寺村が成立している。この座光寺村は島田村に次ぐ大村で、江戸時代初期の肝煎役も2人、江戸時代中期の庄屋役は2人、後に4人による交代制がとられている。明治8年に、飯沼村ほか6カ村による上郷村となり、その後分離・合併が繰り返されて、明治22年に新制座光寺村が成立している。

(今村善興氏 記)

【明治以降の沿革】

明治.....

- 4年 飯沼村・座光寺村・牛牧村の3村が一管区となり、旧飯田領は飯田県となる。そして飯田県は筑摩県に編入される。
- 5年 如来寺を借りて筑摩県第32小校が開校。座光寺村内の組の数は23組（市場・唐沢・流田・五郎田上・五郎田下・下羽場上・下羽場下・中羽場南・中羽場中・中羽場北・欠野・田中・恒川・佐野・池田・古瀬・上野・古市場下・古市場中・古市場上・城・原・宮崎）。
- 6年 大小区制がしかれ座光寺村と飯沼村ほか4カ村は筑摩県第19大区2小区となる。筑摩県第32小校が麻績小校となる。戸数297戸 人口1,570人（男性808人、女性762人）。
- 8年 北原稲雄により麻績神社と命名され、麻績神社の祭典が行われる。座光寺村ほか6カ村合併し、第

19大区2小区上郷村となる。

- 9年 筑摩県庁が焼失し筑摩県が廃県、長野県に合併。麻績学校が、上郷村7番島学校となる。
- 12年 大区小区制が廃止。郡制がしかれ、上・下伊那郡となる。
- 14年 上黒田村・別府村・飯沼南条村・座光寺村の分村願書提出。認可され、黒田村・別府村・飯沼村・座光寺村となる。その時の座光寺村の戸数は309戸。
- 18年 県より連合役場更正の通達があり、4カ村が連合し、飯沼村に戸長役場を置く。
- 19年 4月1日より4カ村の4小校が合併。黒田支校として初等科を、別府支校として中等科を、座光寺は島学校改名して座光寺学校とし、本校中等科も置くこととなる。
- 21年 麻績神社の石の大鳥居建立。
- 22年 町村制が実施され、再々度座光寺村となり、新村座光寺村役場開庁。座光寺学校が座光寺尋常小学校となる。戸数338戸。

- 27年 高等科2年が併置許可され、座光寺尋常高等小学校となる。
- 40年 改正小学校令により尋常科6年、高等科2年となる。
- 43年 座光寺村 戸数404戸 人口2,260人。

大正

- 12年 伊那電が、元善光寺駅まで辰野駅から開通する。

昭和

- 10年 農蚕の祖神を奉戴し、古賀比神社が成工し、遷宮される。
- 16年 国民学校令により、座光寺国民学校と改称される。
- 22年 新学制施行により、座光寺中学校が開校される。座光寺公民館が発足する。
- 23年 座光寺農業協同組合が設立。
- 24年 元善光寺平和殿に座光寺保育園が開設される。
- 26年 座光寺、上郷の両中学校を統合して、上郷村に組合立高陵中学校が開校。
- 31年 1市7カ村が合併して、新飯田市が出来る。飯田市に座光寺村、松尾村、伊賀良村、山本村、三穂村、竜丘村、下久堅村が加わる。
- 33年 上野に上野新町の団地ができ、また大堤に大堤団地が、昭和40年に出来る。
- 35年 高岡第1号古墳が長野県史跡に指定される。
- 36年 地区協議会を自治協議会に改称する。この年空前の大水害あり、田畑流出埋没82ha。これが36災と呼ばれている。また大正14年に始めた元善光寺の菊人形が再開される。
- 41年 座光寺と喬木村を結ぶ阿島橋ができ、その時は有料橋であったが、昭和49年無料となる。
- 43年 竜西一貫水路通水。
- 50年 念願の中央自動車道が開通する。
- 53年 元善光寺の釈迦涅槃像が飯田市有形文化財に指定される。
- 59年 座光寺小学校移転改築竣工。総工費9億2千235万9千円。その年国道153号線バイパスができる。
- 60年 旧座光寺麻績学校校舎が長野県の県宝に指定される。

平成

- 元年 長野県立飯田工業高校が高岡の地に移転開校する。
- 3年 耕雲寺の羅漢門が飯田市有形文化財に指定される。
- 9年 旧座光寺麻績学校校舎の復元と麻績の館完成。
- 10年 竹田人形館の開館。
- 13年 広域農道万才線開通。
- 14年 麻績会館竣工とフルーツラインが開通。

- 16年 麻績の里振興委員会が平成11年発足したが、15年休止。その後、平成16年組織を改め再発足する。フォレストコミュニティ事業として、南本城城跡及び北本城城跡の間伐等の整備が平成18年までに行われた。
- 17年 大堤保育園と旧座光寺保育園が合併して、城地区に新座光寺保育園が開設される。旧大堤保育園には、つどいの広場が開設される。念願の稲荷坂線の改良工事が始まる。麻績の里振興委員会の事業として、半八重紅彼岸枝垂れ桜の名前を公募し、「麻績の里舞台桜」と命名する。
- 18年 元善光寺と麻績の里との間に遊歩道を造り、地域の一体化を図る。公民館駐車場の拡張整備を図る。
- 19年 座光寺地域基本構想・基本計画策定。市の地域自治組織の導入に伴い、座光寺地区自治協議会をはじめ、各種の団体を統合して座光寺地域自治会が発足。座光寺地域基本構想・基本計画に則った地域自治の推進を開始。特別委員会「水辺の広場委員会」「高岡の森保存会」発足。市役所座光寺支所は座光寺自治振興センターとなる。
- 20年 特別委員会「麻績の里ふるさと応援倶楽部」発足。飯田工業高校・長姫高校の統合校が地域の願いに反し長姫高校の地に決まる。畦地1号古墳が飯田市史跡に指定される。
- 21年 座光寺地域土地利用計画を策定。飯田市景観育成推進地区第1号に指定。土地利用計画策定委員会を土地利用計画運営委員会に発展。
- 22年 座光寺夏祭り復活。特別委員会「歴史に学び地域をたずねる会」発足。これまでの地域づくりの各種取組が評価され、麻績の里振興委員会がムトス飯田賞を受賞。渋谷区との交流が始まり、表参道などに新しい化リンゴの苗を植樹。座光寺地域防災計画を他地区に先駆けて策定。
- 23年 JR東海が公表したリニア中央新幹線の路線・駅のエリアに座光寺地域の大部分が含まれていることが判明。地域として対策を講じていくこととした。麻績の里舞台桜が市天然記念物に指定。
- 24年 第1次座光寺地域基本構想・基本計画の見直し作業を行い、後期5ヶ年計画を策定。「リニア対策特別委員会」を設置し対策の協議を開始する。「石川除」が飯田市史跡に、「南本城城跡」が長野県史跡に指定される。特別委員会「パノラマファーム大門」発足。
- 25年 「リニア中央新幹線を見据えた地域づくりの基本方針」を策定。JR東海によりリニア中央新幹線のルートと駅位置の発表がされる。座光寺PAへの

「スマートインターチェンジ」の設置を飯田市が表明。リニアに対する具体的な課題に迅速に対処するため「リニア地域づくり推進会議」を設立。恒川史跡群出土品が飯田市有形文化財に、「恒川官衙遺跡」が国史跡に指定される。

- 26年 国道153号改良及びアクセス道路新設等の「リニア関連の道路整備の考え方」が長野県から公表され、地域の大部分が影響を受けることが判明。地域の歴史資源や景観など活用のため「2000年浪漫の郷委員会」を設立し検討を開始。「史跡ひろば」の公有地化をめざし取り組みを実施。
- 27年 「恒川官衙遺跡保存活用計画」が策定される。「第2次座光寺地域基本構想・基本計画」策定のため、次期基本構想基本計画策定委員会を設立し検討を開始。
- 28年 「高岡第1号古墳」が飯田古墳群として国史跡に指定され、恒川官衙遺跡の追加指定もなされる。旧飯田工業高校の後地利用について産業振興の「知の拠点」としての構想が示され整備着手。12年間の計画期間として「第2次座光寺地域基本構想・基本計画」を策定。
- 29年 史跡恒川官衙遺跡整備基本計画により公園整備の方針が策定された。
- 30年 旧飯田工業高校跡地に「産業振興と人材育成の拠点」エス・バードがオープンした。
渋谷と座光寺のりんごを使ったシールドが完成。
石川除が県史跡に指定された。

令和

- 元年 座光寺の花に「しだれ桜」を制定した。
夏祭りが10周年を迎え盛大に開催された。
2000年浪漫の郷委員会に、史跡等を案内するガイド部会が発足した。
- 2年 新型コロナウイルス感染症が広がりを見せ、多くの会議・行事が中止となった。(～令和4年度)
座光寺スマートインターチェンジが供用開始となる。
自治会役員が一斉に変わることをないように選出方法を改正した。
- 3年 歴史に学び地域をたずねる会が「古老が語った我が歩み 語り継ぎたい『昭和・平成の記憶』」発刊。
恒川史跡公園の清水エリアが竣工し、水を湛えた姿が復活した。
- 4年 座光寺小学校150周年事業の記念式典が開催された。
第2次座光寺地域基本構想・基本計画の見直し検討を行い、後期6カ年計画を策定。

策定経過

全体

【令和3年度】

10～12月 自治会委員会・団体による事業評価

【令和4年度】

4月 委員の選出

5月19日 第1回検討委員会

(部会の構成・見直しの方針説明)

5月30日 第1回正副部会長会(見直し方法の検討)

10月12日 第2回正副部会長会

(部会での検討結果報告・見直し案の検討)

10月27日 第1回調整会議

(委員会・団体へ見直し案説明・意見聴取)

11月15日 第3回正副部会長会(見直し案の検討・決定)

12月15日～1月6日

住民に意見聴取(見直し案を各戸配布)

1月31日 自治会三役・自治委員会総務文教部合同会議
(住民意見をもとに修正)

2月16日 地域振興会議(後期基本構想・基本計画の決定)

部会

(1)第1部会「心通い合うコミュニティを
創造するまちづくり」

個別計画の見直し検討 6月16日・7月13日

部会案の作成 8月19日

(2)第2部会「一人ひとりが地域に学び、
生涯成長できるまちづくり」

個別計画の見直し検討 6月10日・7月1日・7月25日・
8月10日・9月5日

部会案の作成 9月26日

(3)第3部会「自然と歴史・文化を活かし育むまちづくり」

個別計画の見直し検討 6月26日・7月28日・8月30日

部会案の作成 9月22日

(4)第4部会「健やかに安心して暮らせる住みよいまちづくり」

個別計画の見直し検討 6月10日・7月11日・8月10日

部会案の作成 9月16日

(5)第5部会「地域特性を活かした元気な産業のまちづくり」

個別計画の見直し検討 7月21日・8月25日・9月1日・
9月22日

部会案の作成 11月24日

(6)第6部会「人と自然に優しいインフラ整備」

個別計画の見直し検討 6月10日・6月24日・7月7日

部会案の作成 8月5日

策定委員名簿

第1部会

役職	氏名	地区	所属団体
部会長	北原文博	恒川	座光寺壮年団
副部会長	原田 薫	清水	地域協議会公募委員
副部会長	吉川景子	宮の前	自治委員会総務文教部
	牧内 覚	下羽場	下羽場地区
	塚田 修	恒川	恒川地区
	筒井誠逸	市場通り	市議会議員・麻績の里振興委員会
	牧野光彰	市場通り	自治会長
	竹内正義	原	自治委員会産業建設部
	宮崎 勲	宮崎	自治委員会社会部
	縫島佑介	宮崎	座光寺壮年団
	今村洋子		自治振興センター

第2部会

役職	氏名	地区	役職・団体
部会長	吉村義次	大堤西	大堤地区
副部会長	代田貴久	原	座光寺小学校PTA
	吉沢真司	共和	共和地区
	佐々木俊一	清水	清水地区
	片桐善昭	万才	座光寺公民館長
	中島英人	大堤東	自治委員会総務文教部
	鈴木恵子	中河原	自治委員会産業建設部
	赤羽目康夫	万才	自治委員会社会部
	棚田善幸	中河原	水辺の広場委員会
	内川晃佑	北市場	座光寺保育園保護者会
	松井 敬	唐沢	座光寺保育園保護者会
	塩沢未来		自治振興センター

第3部会

役職	氏名	地区	役職・団体
部会長	北村 稔	清水	自治委員 社会部
副部会長	浅野清文	上野	上野地区
	上沼洋一	北市場	北市場地区
	北原 勇	上野新町	上野新町地区
	串原広志	宮崎	宮崎地区
	大澤義信	欠野	副自治会長
	原田清人	唐沢	自治委員会総務文教部
	加藤和男	市場通り	自治委員会産業建設部
	湯沢和行	共和	麻績の里ふるさと応援倶楽部
	田口博人	大堤	歴史に学び地域をたずねる会
	浜島敏彦	宮の前	歴史に学び地域をたずねる会
	吉澤しのぶ	市場通り	座光寺小学校PTA
	北澤未来		自治振興センター

第4部会

役職	氏名	地区	役職・団体
部会長	牧野 良	宮の前	生活安全委員会
副部会長	山崎信彦	高岡	自治委員会総務文教部
	北原文雄	宮の前	宮の前地区
	今村善紀	市場通り	市場通り地区
	塩澤剛秀	万才	万才地区
	井崎英雄	上野	自治委員会産業建設部
	正木 晶	清水	自治委員会社会部
	赤羽目清美	万才	自治委員会社会部
	富村治郎	宮崎	環境衛生委員会
	原田丈子	共和	健康福祉委員会
	宮澤賢二	万才	地域協議会公募委員
	椎谷千津子	大堤東	民生児童委員協議会
	今井貴浩	高岡	消防団第4分団
	堀内美由貴		自治振興センター

第5部会

役職	氏名	地区	役職・団体
部会長	加藤 守	原	地域協議会公募委員
副部会長	三村敏博	唐沢	商工会議所座光寺支部
	松下英喜	唐沢	唐沢地区
	棚田政典	中羽場	中羽場地区
	本田秀道	市場通り	元善光寺住職
	本庄良雄	河原	農業委員
	棚田幸郎	中河原	自治委員会総務文教部
	小林政彦	北市場	自治委員会総務文教部
	井村博久	宮の前	自治委員会産業建設部
	八丁地勤	共和	自治委員会社会部
	長沼 豊	原	パノラマファーム大門
	久保田毅	高岡	商工会議所座光寺支部
	霞 憲治		自治振興センター

第6部会

役職	氏名	地区	役職・団体
部会長	福田 昇	河原	自治委員会産業建設部
副部会長	三村 誠	大堤東	自治委員会産業建設部
	原田 壽	中河原	中河原地区
	今村 修	欠野	欠野地区
	佐々木公男	河原	河原地区
	氏井利彦	高岡	高岡地区
	三村忠行	原	原地区
	正木 茂	下羽場	副自治会長
	長沼万里	原	自治委員会総務文教部
	梶間眞喜夫	宮崎	自治委員会社会部
	細井幸樹	高岡	消防団第4分団
	松村和広		自治振興センター

座光寺地域の小中学校のみなさんに、2027年の座光寺地域の姿や思いを
絵・作文で表現してもらいました。応募のあった作品の中から、そのいくつかをここに掲載します。
なお、全応募作品は座光寺地域自治振興センターでご覧いただけます。

「座光寺の未来」黒河内 逢と乃

「未来の座光寺」代田 彩音

活気あふれる自然の座光寺

六年 湯澤 瑠介

僕は、十二年後の座光寺が、持ち前の豊かな自然があつて、さらに、人々で活気あふれる町になって欲しいです。

座光寺は、豊かな自然があり、そこに付け加え、便利な町です。そして、そこに「リニア中央新幹線」が開通すると、さらに便利になります。せっかく、東京から走って来るのだから、どうせなら住む人や観光客を増やして、活気も増やしたいです。そのため僕が発案したのが、「田舎生活体験」です。この「田舎生活体験」とは、自然豊かな座光寺にリニア中央新幹線で来られるようになり、都会の人の中には、「自然の中で住んでみたいけど、まだ少し不安だな」という人が現れるはわです。そのような時に、座光寺の生活を「体験」できるのが、「田舎生活体験」です。そして、都会から来て体験した人は、地元が良いか、座光寺が良いかを決められる

ことが出来ます。つまり、「座光寺」でどんな所が分からないから今は東京でいいや」と止めるのでは無く、「一回体験してから決めよう」の方が、住んでくれる、又は観光してくれる確率が高くなります。そうすれば、活気あふれる町になるんじゃないかと、思います。

人が増えると、次は、住居が必要です。住居は、なるべく自然をこわさない、スペースを取らないようにするために、アパートなどを建てたり、良いと思います。

そうして発展をして行くと、緑がだんだん目立たなくなつて、座光寺の良さもだんだんうすれて行ってしまうから、「植林活動」を計画したり、座光寺の自然、良さを持続することが出来ると思います。

そして、座光寺が活気あふれる豊かな自然がある町になるように、僕も、大人になつたら、一生懸命、座光寺のために働きたいなと思います。

「活気あふれる自然の座光寺」湯澤 瑠介

12年後の座光寺		6年2組	棚田 実利
12年後の座光寺は自然がいっぱいで、生き物もいっぱい、やさしい地域の人達でいっぱい。農業が盛んな座光寺になっていてほしいです。みんなが走り回ることができて、今みたいに楽しい日が続いているといいです。あんまり、今の自然をこわさずそのまま遠くから来た人達も座光寺に住みたいと思います。もらいたいです。私は、座光寺で生まれたから12年後は、座光寺に住みたいです。そして、この自然あふれる座光寺がずっと、ずっと残っていて観光の人でいっぱいであれがどうみても絶対住みたいと思います。でもうえる座光寺でいてほしいです。私は、いなかの方が好きだから、今の座光寺のままでリニア以外あんまり変わらないでほしいです。たんたんにビルが増えてきているから座光寺は今のままでずっといてほしいです。だから、本当にずっとずっとこのままで変わらないう座光寺であってほしいです。			

「12年後の座光寺」棚田 実利

(ふりがな)	みつし なお	学年	1年 3組
氏 名	三石 菜央	住所	座光寺 唐沢
【タイトル: 12年後の座光寺】			
私が考える座光寺の未来はリニアが走り楽しく豊かな町で、今のよりいい。この小さい座光寺に観光客や人が沢山来るのは、座光寺の初もう出や春に桜を見に来るくらいいいか考えらめんど。でも12年後は多くの人達がこの座光寺を行来します。なごなリニアが通るからです。リニアの駅ができて走るようになるとそれを利用する人が増え、座光寺にも「ついでに」と足をのめ入る方もいると思います。そして町はにぎやかになって皆に笑顔が増え、座光寺に来てくれた人と笑顔があふれるようになります。田んぼや畑も沢山あり、緑豊かな座光寺は12年後、ええと豊かになり皆が地域の行事に参加してくるとていい町になると思います。そのころ私は、25才で仕事をしていると思います。もしかしたら座光寺にはいないかもしれないけど、この座光寺に入る間は皆の役に立つことをしたいです。今が大事なことがあっても、未来は自分の力でかえることができます。なのでこれから、と良い未来を沢山の人達と作っていきます。今、自分に出来ることを精一杯すれば、明るい未来になると思います。そして、いつまでも「愛」と「感謝」を忘れずに生きていきたいです。			

「12年後の座光寺」三石 菜央



「ぼく達が創る未来の座光寺」佐藤 航



「座光寺に行こう」西尾 唯花



「きれいな座光寺」藤本 麻祐子



「ふるさと座光寺館」上田 さな



「みんながなかよしいな町」小林 かなな



「夜でもきれいな座光寺」木下 結人



「下伊那座光寺の宝」黒川 一樹



「リニアがとおる町」片桐 夢花



「外国人がたくさん来る! そしてたくさんの国旗」藤本 光



「自然豊かな座光寺」萱間 喜一



「リニアが通る楽しい未来」北原 安珠



「笑顔いっぱい楽しい座光寺」熊谷 幸子



「リニアが走る12年後の座光寺」棚田 亜衣菜



「自然豊かな座光寺」藤本 雅人



「明るく楽しい座光寺」正木 歌恋



「座光寺の明るい未来」湯澤 瑠介



「行ってみよう座光寺へ」代田 美優



「みりょくがいっぱい座光寺」西村 胡春

座光寺の歌

作詞 伊谷唯介
作曲 正木由布

一

紫におう座光寺の
富士は今ぞ黎明
世紀は明けぬ青春の
この里に手をとりにて
共に共に築かん
おお文化おお文化 我等の希望

二

流れて遠き天竜の
水は常に清新
時代は来たり新生の
この郷に聲あげて
共に共に歌はん
ああ平和ああ平和 我等の使命

座光寺音頭

作詞 日榮 謹花
作曲 高砂 千代吉
編曲 代田 一行
補作 塩澤 哲夫

ぬしにひかれて (ヨイヨイ) 善光寺詣り
拝む片手に サッ コラサノサ ヒとおどり
(ヨイヨイヨイヨイヤサ
アリヤセコリヤセヨイトナヨイヨイ)

座光寺名物 (ヨイヨイ) 音頭に櫻
菊にまん十 サッ コラサノサ 葵焼

本多善光 (ヨイヨイ) 生まれた土地は
伊那の座光寺 サッ コラサノサ 麻績の里

世々に傳はる (ヨイヨイ) 善光屋敷
由来尊き サッ コラサノサ 巨勢の石

踊れ踊子 (ヨイヨイ) 音頭につれて
阿彌陀如来の サッ コラサノサ 笑ふまで

主を待ち待ち (ヨイヨイ) 夕餉の支度
不捨誓の サッ コラサノサ 鐘が鳴る

さゆる音頭に (ヨイヨイ) 揃ふたおどり
さぞや如来も サッ コラサノサ 嬉しかろ

さあさ涼みに (ヨイヨイ) 皆来て踊れ
天竜川瀬の サッ コラサノサ 止まるほど

踊りつかれて (ヨイヨイ) 二人が腰を
かけたは變らぬ サッ コラサノサ 縁の石

第2次 座光寺地域基本構想・基本計画（後期）

あなたも私も暮らしやすい
自然・歴史・文化・ものづくりが煌めく新舞台 「麻績の里 座光寺」
令和5年6月

発行：座光寺地域自治会

〒395-0001 飯田市座光寺2535番地 飯田市役所座光寺自治振興センター内

TEL 0265-22-1401 FAX 0265-22-1475

E-mail: ominosato@zakoji.jp ホームページ: <http://zakoji.jp>